



秋の大祭当日(10月6日・7日)は、やしろショッピングパーク Bioの駐車場が開放されています。

屋台の文化圏

〜まめ知識〜

祭りを華やかに演出する祭礼山車は、車輪付きで引つ張るものと、中で太鼓を叩き大勢の人が担ぎ上げる太鼓台に大別されます。引つ張って曳航する祭礼山車は、京都祇園祭の山鉾などに代表され、ほぼ全国的に点在しています。一方、播州地方で私たちがよく知る屋台のように太鼓を乗せて担ぐ祭礼山車は、太鼓台と呼ばれ、瀬戸内地域を中心に分布し、東日本には見られない傾向があります。太鼓台は、地域によって形態や装飾の様子が異なりますが、特定のスタイルが一定の地域に分布し、一種の文化圏を形成していることがよくあります。

加東市で見られる屋台は、屋根に三段に重ねた布団を載せ、上方に大きく反り返り、鯨や海老など梵天と呼ばれる大きく豪華な飾りがついている特徴があります。このタイプの屋台は、高砂市から三木市、加東市、西脇市、多可町など加古川流域に分布しており、舟運の物流とともに文化も伝播していったことを物語っています。



佐保神社宮司 神崎壽福さん

今年もまた、多くの方々のご協力を得て無事に秋の大祭が迎えられることを感謝しています。秋の大祭において、屋台は本宮に賑わいを与えてくれる欠かすことのできないものです。見物客のみならず、境内が一体となって盛り上がる雰囲気を感じていただければと思います。これからも伝統を守り、大切な祭りをより賑やかに引き継いでいきたいと思っています。

秋の大祭への思い

〜 私たちの心意気〜



新町の屋台
特徴は、緑色の布団と鯨の梵天です。



上中の屋台
特徴は、茶色の布団と鯨の梵天です。



上組の屋台
特徴は、黒色の布団と鯨の梵天です。



下組の屋台
特徴は、赤色の布団と前後に鷹、脇に鯨の梵天です。



新町地区区長 大久保利政さん

昭和七年に購入した屋台は地区の誇りとして受け継がれ、今は、新町秋祭り保存会のみなさんに大切に守っていただいています。秋の大祭は、地区のコミュニティを図り、文化を継承する場として、大切に位置づけています。宮入りでは、新町地区の心意気をぜひお見せしたいと思っています。



上中太鼓保存会会長 松原静夫さん

上中の屋台は、昭和六年に、先輩有志が姫路から担いでこの地へ迎え入れられたものです。老朽化が進みましたが、今年、住民の方の意気込みにより大修繕を行いました。上中の伝統文化の象徴として、新しくなった屋台を初めてお披露目できることを誇りに思っています。



上組総取締役 川崎龍雄さん

上組は、社北部の社一区、二区、三区が氏子の地区です。昨年、屋台本棒を新調しましたが、風格ある屋台が上組の自慢です。地区内では、屋台を中心に、年々祭りを盛り上げる気運が高まっており、本年の秋の大祭においても、氏子が一丸となって、力強い宮入りを披露したいと思っています。



下組総取締役 吉村進吾さん

下組は、佐保神社の門前に屋台がありますので、宮入りでは他の組をお迎えしてから私たちが宮入りし、下向のときは送り出してから出ます。五年前に屋台を新調し、どの角度から見ても綺麗に見える屋台にしました。今年も、五穀豊穡とみなさんの健康を願い、まっすぐに参加したいと思っています。

佐保神社の氏子

現在の佐保神社の氏子は、加東市の社地域、滝野地域、小野市に広がっています。社地域は社、山国、松尾、出水、田中、鳥居、貝原、野村、西垂水、窪田、家原、上中、梶原、喜田、沢部、大門、中古瀬、東古瀬、屋度、滝野地域は新町、北野、稲尾、曾我、多井田、小野市内は菅田町、中番町で合計二十六地区となっています。江戸初期には三十三か村の氏子が記録されていますが、遠方の村の中には自村内に新宮を建て、次第に分離独立して、現在の氏子数になったと伝えられています。

佐保神社の秋の大祭

佐保神社では、その年の豊作を祈る春祭(四月十六日)と豊作を感謝する秋祭が行われます。秋の大祭は、かつては十月十六日に行われていましたが、昭和五十年から十月第一土曜日とその翌日に行われるようになりました。秋の大祭について、その歴史を知る資料はあまり多くありませんが、大正時代に編纂された佐保神社誌に記載の『境内並二附近實況略図』によると、現在の明治館の場所に、「神事太鼓練り場」があったという記述があります。これは、明治時代には、すでに多くの屋台が境内に集まり、賑やかにまつりが行われていたことをうかがわせます。

戦前には十台ほどの屋台が宮入りしていたようですが、現在は新町、上中、上組、下組の四台になっています。

今年の秋の大祭の本宮は、十月七日日に行われます。午後一時から、氏子の子ども達が担ぐ神輿に続き、伊勢音頭にあわせて新町、上中、上組、下組の順に屋台が宮入りし、勇壮な練り合わせが行われます。

屋台は、大工、彫刻師、縫師、塗師など多くの職人の技が一体となつて完成した総合芸術品といわれています。ぜひ一度間近でご覧になられてはいかがでしょうか。

秋祭りの持つ意味

「屋台は地域の誇りである」と語る人がいます。年に一度、担ぎ手とそれを見守る人々が、一台の屋台を中心に、地域の誇りを感じます。佐保神社を依り代として、地域同士の連帯感が強まるときでもあります。これからも大切にしていきたい一日です。

この季節、市内各地では、様々な秋祭りが行われます。神楽獅子舞や神事舞、神輿など、それぞれに地域で守られ、大切にされてきた文化であり、コミュニティづくりにおいて大きな役割を果たしてきたことは間違いありません。深まり行く秋の中で、ふるさとの秋祭りを通して、地域の一体感が一層深まっています。